

市内の子ども研究者が集結

夏休み自由研究展

9月26日～28日、田川市民会館で「第30回夏休み自由研究展」が開かれ、約230人が観覧に訪れました。

この展示会は市教育研究所が主催しており、市内の小中学校の児童・生徒が夏休み期間に取り組んだ研究や工作などの作品156点が展示されました。理科・社会科・家庭科・国語科など5分野に分けられた研究題は「新型コロナウイルスとインフルエンザウイルスの違い」「気温と色水の温度の研究」「日光だけで目玉焼きはできる？」などさまざま。

自身も自由研究展に出品した平原颯太さん（鎮西小学校4年生）は「みんな本格的ですごいと感じました。また来年も挑戦したい」と目を輝かせました。



▲来場者は趣向を凝らした作品をじっくりと観覧しました



▲人物や文字を大きくして目立つように工夫しました

詐欺や連れ去りを注意喚起

防犯ポスターコンクール表彰式

10月9日、田川警察署で「第8回防犯ポスターコンクール表彰式」が行われました。このコンクールは、田川警察署と田川防犯協会連合会が主催しており、今回は同会管内（田川市・香春町・糸田町・赤村・福智町）の小学校から41点の応募がありました。表彰式に招かれた受賞者は、田川防犯協会連合会賞を受賞した高橋直紘さん（後藤寺小学校4年）と田川警察署長賞を受賞した池口葵さん（勾金小学校2年）。それぞれ「オレオレ詐欺に注意」「知らない人について行っではダメ」とキャッチコピーを打った力作を仕上げました。

高橋さんは「詐欺にあうお年寄りが多いので、助けたいと思って描きました」と作品に込めた思いを話しました。

人権コラム：Vol.13

●問い合わせ

人権・同和対策課（☎85-7133）

人権・同和対策課→
Facebookページ



大坂なおみ選手からのメッセージ

女子テニスの大坂なおみ選手が、テニス4大会のひとつである全米オープンで2度目の優勝を果たしました。

この全米オープンの入場や練習のとき、大坂選手は、アメリカで黒人が白人警察の過剰な取締りによって命をなくしたことへの抗議の意を表しました。白人警官などからの理不尽な暴力などによって命を落とした黒人被害者たちの名前を記したマスクをつけて登場したのです。大坂選手は、両親がハイチ系アメリカ人と日本人で、日本国籍を取得しています。日本人である大坂選手が、その一方で黒人として人種差別に立ち向かう姿勢を示しました。この行動を巡って、さまざまな意見が交わされ、議論が起きました。大坂選手が伝えたかったメッセージを、あなたはどう受け止めますか。これをきっかけに、外見やその人が話している言語などで差別されることのない「多文化共生社会」の実現に向けて何ができるか、みなさんも考えてみませんか。